第2回 市美術展をかえりみて

☆…美術の秋を彩る市美術展は十一月十一日から…☆
☆…十八日までの一週間、後免野田小学校で開ら…☆
☆…かれたが、これに努力した関係者と、観覧し…☆
☆…た人々の反省と、声を集録し次回の参考に供…☆
☆…したい。……☆

市展副委員長　岡村次

人間誰しも一年の終末ともなれば、一応歩んだ一カ年の道をふりかえることは常識であり、また意義のあることだと思う。第二回南国市展をかえりみてさらに第三回展への、飛躍のふみ台としたいものである。

一回展は市のいろいろな事情によって、運営上非常に無理もあり苦労も多かった第二回展は、主催者として市自体が、全面的に責任を持ち終始したことは、本来の姿だとはいえ高く評価していいことだ。

第一回展は開会式もなく、子供から「市長さんのテープ切りもやらないか」といわれてはっとしたことだった。

しかし今年は市長のあいさつや、経過報告、各部門別の審査評、市展の歌、テープ切りとげんしゅくな式典が行なえたことはうれしいことであった。

市展の歌と、漫画部門のあることは他に例はなく、市展の誇りとしてよいことだと思う。ただ作詞、作曲者を招待し、感謝の意を表わすことのできなかったのは残念だし、相済まぬことと思う。

PRの点については単に市美術展があるというのみでなく、多くの新人や、作者に意欲を持たすような方法も親切なことと思う。第三回展に備えて考えなければならない問題である。地方によっては、美術に理解を持つ事業主など、従業員の中にクラブなど、研究団体を作って育てているところもある。市としても指導者を招き、講座や実技の勉強の機会をつくることを考えてやるだけの心がまえをもつべきである。

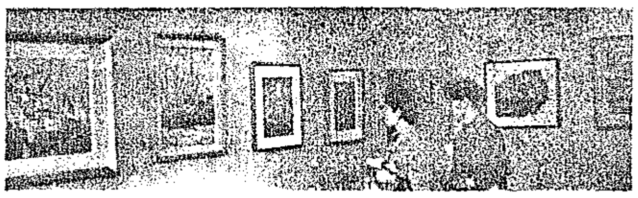
とくに出品者の少ない彫塑日本画、漫画など、どしどし新人を育てるためにも是非しなければならないし、洋画、写真、書道など、さらに高度なものに育てるためにも必要なことである。

予算については、市議会の理解ある措置によって不自由はなかったが、ついたては子供展の会場にも必要だろうし、維持するための塗装もしなければならないし種々の点から十万円は計上し、充実して行きたいものである。

児童生徒の作品は、学年により第一回展とは多少異った出来不出来もあったが、総体的に見て四国でもトップクラスにあることは間違いないことであるが、市全体の学校にそれぞれ特色のある、平均された作品がならぶようにしたい。とくに工作的なもの立体表現などの作品の少ないのは、残念であるが将来を期待したい。

市展が一般市民の発表の広場であるためには、出したいものは全部発表できるアンデパンダン的な運営が望ましいが、会場の都合、また、レベルの向上からも意欲的な苦労した作品や、大作にどんどん体当たりしたような作品が出品されるためにも、ある制限も必要だし、将来は奨励賞もやれるようにしたい。

ことしは個人毎について審査員の評をつけたことは、県下に例のない親切なことでよいと思う。作家だけの向上ではなく、観る人々の眼を育てることも、また大切なことであることをわすれてはならない。県下で第二のである南国市に、中央公民館のないことは残念なことである、将来このような催しができるすばらしい公民館の、早く実現することを希望としたい。



絵画、書道などの六部門

市教育研究所　細川義彰

児童生徒の作品にわたって開らかれた美術展は、質量ともに前回をはるかにしのぎ、一般の出品者は、六十八人、作品百六十八点（入選百三十五点）、児童生徒は、図画二千点（入選二百四十九点）、工芸、彫塑七十一点（入選三十一点）、習字六百六十四点（入選三百六十五点）という充実ぶりであった。

広く美術愛好者が増えたこととあいまって、次第に盛り上がりをみせ開催日の開会式後の参観者が千二百人にのぼるすべり出しを契機とし、毎日数百名（会期中七千人）の参観があり、とくに市民だけでなく遠く高知、安芸などの広範囲にわたり、昨年以上の賑わいをみせたのは、新聞などによるPRによるものだが、将来の市展の展望は明るいと思う。また、老若男女をとわぬ広がりをみせたことは大きな収穫であった。

本年は、ついたてを増設し作品収容の幅を広め、審査員の総評、個人評を作品ごとに添えたことが人気を呼び、一作ごとに静かなふんいきの中でゆっくり観賞する姿がみられた。

〔漫画〕＝県展にもまたほかの展覧会にもないものだけに非常な人気を呼び、現代世相を諷刺しているシャレ的なものに興味がよせられ、また、白黒のみで色彩がないと思っていたが、いろいろな色が使われているのに驚いた。

〔日本画〕＝県展無鑑査の作品もあり、県展がそのまま移動してきたようで大変参考になった。しかし、若い人たちの間に日本画をやっている人が、いないのは淋しいものだ。

〔洋画〕＝作品数が昨年より増え県展作家の名も見え具象あり、抽象あり壮観であった。また、審査評が一作ごとにつけてあり、わからない絵といわれる抽象画も、理解することができた。

〔書道〕＝県展作家のベテラン作家で占められていて、見ごたえがするが、新人のすくないのは残念である。また、左右のいれかわっている〝こんな作品もあるのかと不思議でもありおもしろく思った。とくに何を書いているか解読に苦しむことが多いが、審査評に字の読みがあり、実に細いところまでいきとどいていると感心した。

〔彫塑、工芸〕＝県展作家の招待作品や、努力作品はあったが、作品がすくないのでものたりなかった。

〔写真〕＝審査評があり観賞に役立っていた。しかし総評だけでなく、作品ごとの評がほしかった。

〔児童、生徒展〕＝県下でも盛んなところで、全体を通じ、レベルが向上しているのに驚いた。とくに図画では、一割位の入選で、かなり厳選になっている。できればもう少し収容できないものだろうか。

以上のような参観者の声から考え、誰れにでも親しめる市展といった意味から、市民と直結する美術の広場をつくることであり、美術に志ある人々はどしどし出品されるように望みたい。また一般の人々も気楽な立場で観賞し、教養を高めていただきたいと思う。そのような場をもうけたい。

本年の運営においては、昨年の反省を基盤とし、一応その目的を達成することができたが、いろんな面においての不備な点をお詫びするとともに、一層のご協力をいただき、第三回展に期待したい。

一日も早やく、展示会場となるべき殿堂の実現を念願してやまない。

市展かれこれ

市展の委員に選任されながら、実務をさっぱりやらなかったことは、すまない。

わたしは、各部門にかんする知識はなく、製作もできないが、報道に当たった立場から、だいたい次のように感じた。

百六十五点（児童生徒作品をのぞく）という出品点数は、県下新市で行なわれる古参市民の出品点数から見て、少ない数ではないが、出品者の〝腕〟は非常に薄い。いいかえると一人が数点出品しているということ、それは高い製作意欲として、高く評価されることではあっても、一考して広い〝腕〟の出品を求めなくてはいけないと思う。それは二回行なわれた市展により、発展していくことではあろうが、てんで関係者の積極的な啓発運動が必要なはず。

善意＝とはいい過ぎかも知れないが、応募条件が一部無視され、他の行事に応募して入選したものが見かけられた。

美術を愛するもの、まして制作するものは、もっと善意を持ちきれいな考え方をしてほしいものだ〟

こんどの場合「市展には気安く応募できる」という考えを盛り上げるためレベルに達した作品は、全部入選とし順位をつけなかったため、部門により優劣を見分けにくかったり、または優劣がはっきりしすぎて、割り切れない気持ちを持ったものがあったと思う。このことは〝気安い〟気持ちを育てることにはなっても、人によっては制作意欲を高めるとは限らず功罪なかばすると思う。結局順位を明かにするのがこうした行事のならわしであることから考えて、明年以後は順位制に切り替えて市長賞、議会議長賞といったもので待遇すべきだ。（三谷）

年の瀬がくると愉快な話がほしくなる。後免町中町、木村清、井関さんの宅にあるアマガキは年を越してもなり続ける。なかなかの巨木で、百年ほどたっているらしく真冬に〝イキ〟のよいカキがなっているとは珍しいといえよう。

句集南国

池　禎章　選

わが歩々の校舎にひゞき寒い朝　関　高橋道夫
唸り上げよろめき来り枯野バス　後免町　田淵落水
駅の柵黒しコスモス咲き添える　比江　高村要女
菊大輪咲かせ給いし師今亡し　片山　吉川米美
秋晴れに鎌持つ力満ちにけり　比江　川村比路
校庭に落葉をしきて大銀杏　中島神　山本尚代
色あせる朝な夕なにコスモスは　比江　永田培尚
秋晴れの連休待たで鎌をとぐ　比江　岩原貞女
麦を蒔く乙女はだしの霜の朝　東崎　吉本晴月
三十三才落葉とともに舞いゆきぬ　後免町　磯崎政子
母の忌にコスモス手折る父黙し　比江　小松芙美
秋日和神輿待ちうけ掌を合わす　比江　岩崎雅香
座をゆずりあんかから見るテレビ哉　東崎　片岡清光
落葉道花あたらしき石仏　福舟　和田ひでみ
放尿の農夫がに股櫨紅葉　福舟　大倡新草

次回選者　小松六居

高級御誂服とレディメード替ズボン
西田洋服店
後免中町（相銀前）電話3063
有線　155—13

今月の税金

12月は、昭和37年度県市民税第３期分の納期（12月１日〜25日）です。市では納税者の便宜を計るため、市金庫（農協）以外の次の場所で出張徴収をいたします。期限内納税にご協力下さい。

地区	月日	時間	場所
大篠	12月24日	前9時−後4時	竹中公民館
稲生	〃	前9時−正午	立石公民館
〃	〃	後1時−後4時	西谷消防屯所
十市	〃	前9時−正午	岡戸公民館
〃	〃	後1・午4時	大小浜公民館
久礼田	〃	前9時−正午	植田公民館
〃	〃	後1時−後3時	領石支所
伊達野 住吉野	12月25日	前9時−正午	住吉野公民館
大篠	〃	前9時−正午	明見公民館

ブルトーザー施工
吉本鉄工所
南国市日章立田
ETL（日章）26

新年俳句会

日時　昭和38年1月2日　午后1時より
場所　大篠公民館階上
参加希望者は12月29日迄に必着当季雑詠５句左記宛送付のこと　南国市大埇字弘井ケ内　西岡双鳥子
会費　50円（前納又は当日持参にて良し）

毛糸
トーア、スキー
ローレル、カネボー
後免西町　富士屋百貨店
TEL248

お見合に
御婚礼に
山崎写真館
南国市後免中町
電話　南国　354